

# タフ下地シート 施工要領書

シンコール株式会社

# タフ下地シート施工要領書

本施工要領書は、タフ下地シートを施工する為のものであり、明記されていない施工法の発生並びに止むを得ず記載事項の変更を要する場合には、随時検討、対処するものとします。

## 1. 材料規格

### 1) 床材の種類

発泡ビニルアンダーレイシート

### 2) 材 質

塩化ビニル樹脂を主成分とし、連通発泡による発泡ビニルシート

### 3) 寸 法

一般名称	発泡ビニルアンダーレイシート
寸法	3.0mm(厚さ)×1,820mm(幅)×9m(長さ)
梱包	20m／巻
重量	0.99kg/m <sup>2</sup> 、36kg/巻

## 2. 副資材

### 1) 下地補修材

下地に凹凸、穴などがある場合には、下地補修材《ロンフロー》を用いて補修を行う。

ロンフロー：ポルトランドセメント・特殊合成樹脂・特殊充填材からなる樹脂モルタル

### 2) 下地処理材（プライマー）

下地表面に粉立ちがある、表面強度が弱い場合には、下地処理材《ロンプライマーU》を塗布し下地処理を行う。

ロンプライマーU：ウレタン樹脂系 脱BTX対応のプライマー

### 3) 接着剤

一般工法：

ロンセメントエコ（アクリル樹脂系エマルジョン形 JIS F☆☆☆☆）

SG-2200（アクリル樹脂系エマルジョン形 JIS F☆☆☆☆）

耐水工法（土間床）：

SG-1000（ウレタン樹脂系 JIS F☆☆☆☆）

EP-990（エポキシ樹脂系 JIS F☆☆☆☆）

EPシングルウレタン（ウレタン樹脂系 JIS F☆☆☆☆）

EPシングルウレタン2000（ウレタン樹脂系 JIS F☆☆☆☆）

### 3. 工 法

	一 般 工 法	耐 水 工 法
下 地	よく乾燥したコンクリート・モルタル下地	下地から湿気が上がってくることが予想されるコンクリート・モルタル下地（土間床など）
接 着 剤	ロンセメントエコ SG-2200	SG-1000 EP-990 EPシングルウレタン EPシングルウレタン2000
目 地	重ね切りによる突き付け目地	

※保管の際は平坦な場所に真っ直ぐ立てて行う。長期間にわたって横置きにすると、シートに置きぐせがつくことがあるので注意する。

※施工の際はロールの内側（不織布＝印刷面）を下地に接着する。

### 4. タフ下地シートの施工手順

タフ下地シートの施工方法は次の手順で行うが、施工を行う前に下記項目について下地に点検を実施する。点検後下地補修が必要な場合には、施工実施前に監督者と十分に協議し、処置する。

- ・乾燥度はよいか：床材施工では湿気が大敵となる。表面が乾いていても、床材施工後に湿気が上がってくることがあるので注意する。予め立地条件、環境、材令、工法を確認する。
- ・平滑度はよいか：不陸、凹凸、ひび割れ、目違い、接合部における突起や凹凸がなく、平滑に仕上がっているか確認する。
- ・十分な表面強度があるか：本来の接着強度を発揮するためには下地自体も十分な強度を備えていることが必要である。脆弱な下地でないか、粉立ちが無いか確認する。
- ・十分な剛性があるか：床面のたわみ、振動などによる下地の障害がないか確認する。
- ・汚れがないか：接着を妨げるような塵埃、モルタルアク、油、塗料錆などが付着していないか確認する。
- ・他部材との取合いはよいか：下地と壁面との取合いおよび踏込み部の精度は良いか。出入り口開口部とのレベル関係は良好であるか確認する。

#### 1) 材料の搬入・保管

- ・タフ下地シートは乾燥した室内の平坦な床に立てて保管する。
- ・どうしても横置きにしなければならない場合は、積み重ね（俵積み）は避け、平置きとし、それも出来るだけ短期間で済むように配慮する。
- ・保管場所は前もって清掃し、砂や砂利などがないようにしておく。

#### 2) 下地の調整

タフ下地シート施工のための下地条件は、下地面を平滑に仕上げ、下地の乾燥は十分に行い、粉立ちがなく、表面強度が十分であることを確認する。

- ①下地に凹凸、穴などがある場合は下地補修材《ロンフロー》を用いて補修する。
- ②下地に塵埃、モルタル滓、油、塗料などが付着していないか確認し、付着している場合には、除去、清掃する。
- ③下地表面に粉立ちがある、下地強度が弱い場合には、下地処理材《ロンプライマーU》を塗布して下地処理を行う。
- ④コンクリートは十分乾燥させます。高周波水分計（ケット水分計HI-520）で測定して、440未満（従来の下地水分指標：8%以下）とする。

床材の割り付け方法に従って床面に割り付け線を引く。  
方法としては墨つぼによる方法と、糸チョーク（白）による方法がある。

ケット水分計HI-520による読み値と水分率目安

グレード	選択 D.MODE （読み値）	従来の下地水分 指標（%）	施工方法目安
I	HI-520：440未満	8%以下	一般工法
II a	HI-520：440以上620未満	8～10%	耐湿工法推奨
III b	HI-520：620以上	10%以上	施工不可

※水分計の設定条件：厚さ40mm、温度：AUTO

（注意）

セルフレベリング下地（SL下地）には石膏系とセメント系があるが、コンクリート・モルタル下地に比べて、石膏系は強度が弱く、ビニル床シートの下地として適していませんので、事前に試験張りして確認を行う。

### 3）割り付け

床材の割り付け方法に従って床面に割り付け線を引く。  
方法としては墨つぼによる方法と、糸チョーク（白）による方法がある。

- ①タフ下地シートを施工の際は、ロールの内側（不織布面＝印刷面）を下地側に接着する。
- ②タフ下地シートを壁際に納める際は、100mm程度余分に割り付けする。
- ③シート同士のジョイントは20mm以上重ねて重ね切りするため、重ねしろを考慮して割り付け計画を立てる。更に割り付け計画は、タフ下地シートの上に施工する床仕上げ材が、タフ下地シートのジョイント部分に重ならないようにずらして施工することも考慮する。

### 4）ジョイント部分の納め

タフ下地シートのジョイントは突き付けのままで床仕上げ材を施工するため、隙間なくジョイントを納めることが重要となる。基本的にジョイント部分は接着剤を塗布する前に納める。壁廻りについては100mm程度余尺を取り割り付けを行うので、出隅・入隅の部分に切り目（割り）を入れて、接着剤を塗布した後に納めるようにしておく。

### 5）接着剤の塗布

タフ下地シートは厚みが3mmのため、シート幅方向（観音開き）に折り返して接着剤を塗布する方法よりもシート長手方向でシートを折り返して接着剤を塗布した方が施工は容易となる。接着剤は下地条件により指定の接着剤を使用し、所定のクシ目ゴテを用いて施工を行う。

## 6) 貼り付け

適切なオープンタイムを取った後、折り返したタフ下地シートにエアーを巻き込まないように中央からエアーを追い出すように貼り付ける。その後、しごき棒（角材にカーペットを巻き付けた物）などを用いてエアー抜きを行う。

## 7) 壁際の納め

ウォールトリマーを用いてシート長手方向からカットして納めていく。同様にシートの幅方向も納める。

## 8) タフ下地シート上の床仕上げ材の納め

床仕上げ材の施工は、基本的にはタフ下地シートの流し方向と同じ方向で施工する。タフ下地シートの上に施工する床仕上げ材のジョイント位置は、タフ下地シートのジョイント位置から100mm以上ずらすことが望ましい。その際の接着剤はウレタン系、エポキシ系を使用する。

## 9) ジョイント目地の溶接

床仕上げ材の目地は熱風溶接工法を採用する。目地はレセススクライバーで落とし込み、UまたはVカットする。熱風溶接機を用いて専用溶接棒を十分溶融しながら溶接する。余盛りは、一度トリムガイドを使用してスパトラナイフでカットし、溶接棒が冷えてから再度平滑にカットする。

## 10) 施工後の点検

シートの膨れや破損および接着剤の汚れを点検し、不具合がある場合は手直しを行う。

## 11) 養生

床仕上げ施工が長期にわたるときは、その間の歩行や資材運搬台車等からの汚れや資材等の落下による傷を防止するため、床仕上げ施工の完了した場所から順次養生シートによる被覆養生を実施する。

以 上